

2018年に動員20万人を超える大ヒット
日本中を深い感動で包んだあの物語には続きがあった!

あなたの街の自転車で
行ける映画館

アルツハイマー病を患った母を
98歳になった父が懸命に介護す
そんな中、新型コロナウイルスの波が押し寄せ、
事態は急変する。



やわらかい心温まる映画 ②



監督・撮影・語り
& ひとり演
信友直子

ぼけますから、
よろしくお願ひします。
～おかえりお母さん～

母が認知症になっても、父は変わらぬ愛を注ぐ
結婚生活60年を過ぎた90代夫婦の生きる道



2022年/日本/ドキュメンタリー/101分/ビスタ/2.0ch 監督・撮影・語り:信友直子 プロデューサー:高橋剛 監製: 制作プロデューサー:信友直子
編集:日見明俊 配役:藤原典、岡本英次 音楽:藤原典、岡本英次 ライン編集:松田悠 製作:高橋剛 制作プロダクション:スタッフラビ
配信:フジテレビ ネットワン 映画テレビ 給食家 配信:配信:アンフラッド © 2022 All Rights Reserved. ~10月31日~制作委員会 00 www.DSICHOSEI.COM



2023年 1月28日(土) シライシアター野洲 (野洲文化ホール)

上映時間 [1回目 10:30] / [2回目 14:00] (開場は各回 30分前) 101分・字幕有

<チケット料金>【全席指定】前売 1,000円 当日 1,200円 未就学児入場不可

<前売券販売所> ●シライシアター野洲 ●ローソンチケット (Lコード=52454)

10/13(木)発売

チケット発売初日はシライシアター野洲では窓口販売は行っておりません。午前10時からの電話予約をご利用願ひます。

人が生きて老いてゆく先には、
必ず死と別れがあります。
でも人生の最終章は悲しいだけではありません。
お互いを思いやり、かわす笑顔もありました。
今回もまた、誰もが自分のこととして
感じてもらえる物語になったと思います。

信友直子 (監督・撮影・ひとり娘)

ロコミが広がり異例のロングランになった
『ぼけますから、よろしくお願いします。』(18)

あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

本作では前作をひも解きながらその後の夫婦の物語を描く。老老介護、認知症、看取り。日本全体が抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままに、かつ、時にユーモラスに綴っていく。認知症とともに生きることの大変さや家族の苦勞に共感する一方で、こんな風に生きられたらと憧れを抱かせてくれるような夫婦の姿があった。

広島県呉市、信友直子監督が描くのは年老いた自らの父と母。アルツハイマー型認知症を発症した母の症状が進むにつれ、父は95歳にして人生で初めて家事を覚え、妻を支えている。現実を丹念に見つめた前作『ぼけますから、よろしくお願いします。』は、令和元年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞、キネマ旬報ベスト10文化映画3位、ぴあ映画の初日満足度では1位になるなど高い評価を得た。



東京で働くひとり娘の「私」(監督・信友直子)は広島県呉市に暮らす両親を1作目完成後も撮り続けた――



12018年。父は家事全般を取り仕切るまでになり日々奮闘しているが、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症、入院生活が始まる。外出時には手押し車が欠かせない父だったが、毎日1時間かけて面会に行き、母を励まし続け、いつか母が帰ってくるためのと98歳にして筋トレまで始め周囲を驚かせる。しかし2020年春には新型コロナウイルスが猛威をふるい面会すらままならなくなる。



シライシアター野洲(野洲文化ホール)

〒520-2331 滋賀県野洲市小篠原 2142
<JR 琵琶湖線 野洲駅下車南口より徒歩3分>

☎077-587-1950(9時~17時 月曜休館 祝日は開館)

WEB SITE

